

# スタサプ問題を定期考査にプラス。試験前の動画視聴率急増で、自学&基礎学力UPが形に

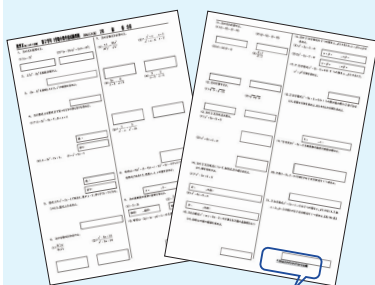
## 大阪学院大学高校（大阪・私立）

テーマ ▶ 大型校で、教員を組織化しながらスタサプを導入

目的 ▶ 部活動中心の生徒への自学習習慣育成と基礎学力の向上

### スタディサプリ活用法

#### ●スタディサプリの問題を定期考査に！



\*印はスタディサプリから出題

富原先生が作成した2年生の「数学Ⅱ・1学期末考査試験問題」。文I(普通)・スポーツ科学・国際コース共通で、30問中、7問をスタディサプリから出題。問題用紙の最後には「\*印はスタディサプリから出題」と記されている。スタサプで一度解いた、自分が確実にできる問題から解いていくことで、効率よく試験を進める力も身につくという。

#### ●生徒たちの活用法

各教科への理解度を確認するために、授業で習った内容をスタサプの問題で演習しています。不安な単元を確認テストで見直し、正答率が悪かったり、疑問が残る場合は、動画を見てすぐに復習し、理解を深められるので、とても便利だと思います。スタサプのおかげで授業の復習は毎日30分程度、定期考査前は1～2時間勉強する習慣も身につきました。特に英文法への理解が深まり、英文の構造を意識して読めるようになって英語に対する自信ができました。

(文Ⅱ(特進)コース2年 西山心結さん)



スタサプの動画を見て、普段から疑問に思っていた英語の文法が理解できるようになりました。定期考査前は、試験範囲を一通り勉強した後、スタサプの問題を解き、間違えた問題と解くのに時間がかかった問題をもう一度やり直し、似たような問題を探して苦手な問題を克服していくように活用しています。週末課題に取り組むときは1日30分から2時間かけて一気に課題を終わらせます。

定期考査前は、毎日1時間ほどスタサプを使って勉強しています。

(文I(普通)コース2年 河合真優さん)



スタサプを活用して数学に取り組むうちに、しっかりと設問や解説を読むことの大切さに気づかれ、数学の面白さを知りました。毎日の自宅学習でスタサプを活用するのは30分程度ですが、定期考査前は1教科1時間程度かけて復習します。数学は、スタサプ講師の話が理解できるまでノートに書き、その後、タブレットを使ってもう一度問題を解き、疑問点がなければ終了。「なるほど!」という教科の面白さが見つかれば、必然的に勉強が楽しくなると思います。

(文I(普通)コース2年 樋口乃々子さん)



普通・国際・特進・スポーツ科学の4コースがある大阪学院大学高校は、全校で50クラスを数えるマンモス校。部活動が盛んで多くのプロスポーツ選手を輩出しているものの、普通コースとスポーツ科学コースの生徒たちは部活動中心になりがちで、家庭学習の時間が取れていないことが以前から課題だったという。

「そこで、2017年に導入したのが『スタディサプリ』です。2019年以降の学習指導要領改訂や探究学習、個別最適化学習への対応、ICT環境整備も見据えてのことでした。しかし、当校のようなマンモス校は、教員の同意を得て活用するまでが大変です。当時は私も学年主任だったので、学校全体を動かすために進路指導部内に、基礎学力向上委員会を設置し、スタサプ導入に取り組みました」と教頭の日野貴之先生。

### 課題

部活動中心になりがちな生徒の学習時間を増やし、基礎学力を伸ばすには？

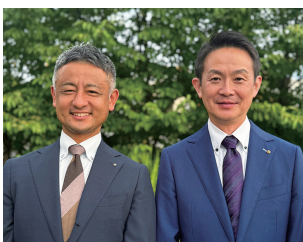
### 活用

「スタサプ課題から、定期考査の問題を出す」ことで、活用率爆上がり

「基礎学力向上委員会は、有志の教員を集めて勉強会からスタートしました。今後の教育の変化を共有し、当校の良い点と課題を出し合うワークショップを行い、課題を整理。スタサプの活用方法も数回かけて教員にレクチャーしました。1学年は、到達度テストの結果を踏まえ、夏休みまでは中学校の学び直し課題を行う。2学期からは、各教科の教員が授業内容を週末課題として配信するなど、スケジュールを立てて進めていきました。部活動で忙しい生徒たちが、導入1年目から課題をきちんと提出するようにはなりませんが、ある活用法では生徒のスタサプ視聴率が劇的にアップしました。これには驚きました」と日野先生。

その活用法とは、「スタサプの問題を定期考査で出題する」というもの。発案は、導入当時数学教科主任として基礎学力向上委員会に参加していた富原雅則先生だ。

「スタサプからの出題は、100点中20点。数学は40点以下が追試なので、20点は大きい。定期考査の問題用紙には『\*印はスタディサプリから出題』と記している。生徒たちも『本当にスタサプから出る』『取りこぼすのは惜しい』と自主的に勉強するようになりました。新校舎が完成してICT環境が整った2020年から、英語の定期考査にもスタサプの問題を入れていきます。生徒も『英語がわかるようになった』と言いますし、最近では『国語や世界史、日本史の定期考査にもスタサプの問題を入れてほしい』との声を聞くようになりました。部活が忙しい生徒に『課題をやりなさい』を繰り返していたら、生徒も教員も疲弊するだけ。生徒が自主的に学習する環境をつくれたことは、当校にとってベストな導入でした。活用法をアップデートするために、今後も本校らしさを教員みんなで模索していきたい」と富原先生。教員を巻き込むことが、活用成功につながるといふ好事例だ。



写真左から  
日野貴之教頭(国語)  
2年学年主任・普通コース主任  
富原雅則先生(数学)

### School Data

創立1959年／普通科 生徒数1912人(男子1165人・女子747人)／進路状況(2026年3月実績)大学499人、短大11人、専門学校等60人、就職7人、その他23人